

足立区立桜花小学校
学校長 岡戸 良雄 様

足立区立桜花小学校 開かれた学校づくり協議会

平成27年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

- 【総括】○桜花基礎学習教室のあり方や学習方法については指導をお願いする方に確認する。桜花基礎学習教室が何を目的に実施し、どのように取り組みを進めているか共通理解が必要。
- あいさつは「進んで」行っているかは、自己申告の数値と、実際の地域での実施には差がある。地域で挨拶運動の取り組みを通じて感じるのは、「進んで」あいさつできる子どもは多くはない。こちらから働きかけてできる児童がいる程度である。
 - 放課後のパレット教室での言葉づかいが気になる。乱暴・傷つける言葉づかいをさせないことが必要。子供たちを取り巻く言語環境を、よりよく整えていく必要がある。
 - 子供たちだけではなく、保護者も挨拶力が弱い。PTAを通じて保護者への啓発がもっと必要である。
 - 小中連携については、花畑北中学校が小学校側の取組を生かし、9年間連続した学びの場を整えようと努力している。授業以外でも連携(清掃活動・ボランティア活動等)を進めてほしい。
 - 協議会としては、これからも子供の特性を活かす教育を推進するために、学校側からもっと相談や情報提供を行ってほしい。「桜花小の子どものために」ならば協力できる。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

【体力の向上について】

- ・登校できない、欠席の多い児童への働きかけで地域の協力を得て取り組みを行っているのは理解できる。学校でできること、できないことを整理して協力を依頼してほしい。

【欠席者数について】

- ・土曜日授業での欠席者数については、学習ボランティアで様子を確認したが、通常の日も多いのは病気や体調不良だけではないだろう。朝、学校へ送り出すために家庭の協力、努力は欠かせない。働きかけは必要。

【家庭学習習慣について】

- ・家庭学習の習慣は大切。宿題を「桜ぱれっと」の場においてやっていく子もいる。ドリルの答えをそのまま写している子もいる。宿題の出し方や内容を工夫していくことが必要ではないか。
- ・学校の宿題は頑張っているが、発展的な学習がなかなかできない。安易に答えを求めていくだけでなく、自ら考えることができる児童を育てる必要がある。ぜひ協力したい。

【保護者への啓発について】

- ・PTA 活動や、20 周年に向けての取り組みを、保護者も広く理解する必要があるのではないか。「桜花基礎学習教室」や「桜ぱれっと」が何を指してどのような子供を対象としているか、年度初めに、学校と PTA とで連携して理解しておかないと、分担をただこなすだけの関わりになってしまう。校長と PTA 会長の努力が大切。
- ・PTA 役員会で情報を共有することが大事なので、管理職と PTA との情報共有の方法を工夫していくとよい。

3. その他

○桜花基礎学習教室やの協力体制の組み方、教材、指導方法については一考の必要性がある。
○参加児童の出席数が低下している。教科を変更（算数・国語→国語）したが、次年度の運営についてはどのように取り組みを進めるのか。

⇒学校全体の授業力向上があつて、そのうえで必要な児童に基礎学力の定着を浸透させることが重要である。授業力向上については「授業スタンダード」の定着を進めていく。学習指導の基礎基本をしっかりさせたうえで、教師一人一人に個性を生かした授業を展開させていきたい。基礎学習教室については、区学力調査結果のデータやステップアップテスト等の分析から対象児童をピックアップし、一人でも多くの参加者を募りたい。

指導方法や教材の内容等については、開かれた学校づくり協議会委員の方と協議の場を設けて、共通理解を図った上で開始する。

⇒教材の準備等についても御協力可能な方には、学校から依頼したい。これまで以上に情報を共有し、積極的に情報を発信し、桜花基礎学習教室に関わる全ての児童にとって「参加して良かった」という肯定感をもたせる桜花基礎学習教室としたい。

(校長回答)